

岐阜市地球温暖化対策推進委員会の 他の活動の一部を紹介します

バイオマス普及啓発

植物など環境に優しい素材からつくられるバイオマス製の啓発品として、定規（県産間伐材を利用）と鉛筆（廃木材を利用）を今年度エコスクールに認定した2校に進呈しました！認定証も木製（建築端材を利用）です。



エコワットの貸出

エコワット（簡易型電力量表示器）は、電化製品の電力量や電気料金、二酸化炭素排出量などがわかる計測器です。

使用している電化製品の電力量が目に見えて分かるので、節電に役立てることができます。

使い方は、コンセントと電化製品のプラグの間につなぐだけ。

個人や学校単位でも貸し出しています。お気軽にお尋ねください。



「ぎふ減CO₂ポイント制度」

「ぎふ減CO₂ポイント制度」は、地球温暖化対策のため、効率的なエネルギーの使用を目的とした市民による省エネ運動です。電気・ガス・水道の使用量削減など、各家庭で二酸化炭素(CO₂)の排出量を減らすことでポイントが貯まり、貯まったポイントで電動アシスト自転車や図書カード、QUOカードなどの「もっと省エネ啓発品」が当たる抽選に応募できます。

市庁舎、公民館などで配布しているパンフレットでのご応募の他、パソコンやスマートフォンでも簡単に応募できます。ぜひご家族でチャレンジしてみてくださいはいかがでしょうか。

もっと省エネ啓発品の一例



ぎふ減CO₂ポイントマイページ

URL <https://mypage.genco2point.com/mypage/>



スマートフォンでQRコードを読み取ると「ぎふ減CO₂ポイントマイページ」に移動します

あなたの学校で、環境に関するおもしろい取り組みがあったら、ぜひ教えてください！

お問い合わせ

岐阜市地球温暖化対策推進委員会事務局(岐阜市 低炭素・資源循環課内)
〒500-8720 岐阜市神田町1-11(南庁舎4階) TEL:058-214-2149(直通)

この印刷物はグリーン購入法に適合した用紙を使用しています

ぎふエコチャレンジ

令和2年度

エコスクールレポート



岐阜市内の小中学校における、環境に関する取り組みを紹介します。
みなさんの学校でも地球温暖化の問題について考える「きっかけ」にしてみてくださいはいかがでしょうか。

岐阜市地球温暖化対策推進委員会

雑がみ講座

長森西小学校では、4年生が総合的な学習の時間に環境について学んでおり、7月には雑がみ講座を受講しました。リサイクルできる紙とできない紙があることを知りました。



雑がみ回収

4年生がリサイクル・エコ委員会をつくり、月に1度雑がみ回収を全校で行っています。回収日の前日に校内放送で呼びかけ、当日朝に各教室に回収しに行きます。回収後、どれだけ集まったのか校内放送で発表します。



低学年の子たちに雑がみが何かを理解してもらおうが大変でした。笑顔で元気よく説明するのが大事!

1クラスで約5kg集まりました!

教材としての植物の利用

1年生はあさがお、2年生はミニトマト、3年生はえだまめ・キャベツ、4・5年生はへちま、6年生はじゃがいもを理科の教材として育てています。



また、2年生と地域の方でさつまいもの苗植えを6月に行いました。秋に収穫する芋は家庭に持ち帰ったり、芋でスタンプを作ったりします(今年度は調理ができないため)。ツルも縄跳びにして遊ぶなど、最後まで無駄なく使います。



牛乳パックの回収

給食で飲んだ牛乳のパックを回収しています。

節水として、顆粒洗剤についてくる再利用のスプーン一杯の水できれいに洗ってから、つぶして乾かして回収に出しています。



校庭の芝生化事業

PTAの方や地域の方と6年生が協力して、校庭に芝生を植えました。校庭の温度を上がりにくくするだけでなく、鉄棒などの遊具の下に植えたことで、けがを防ぐ効果もあります。



雑がみについての学習

7月に5年生の児童が「雑がみ講座」を受け、岐阜市のごみの現状や分別について学びました。

雑がみ新聞

雑がみとそうでない紙の見分け方や、雑がみは何にリサイクルされるのかなど、講座で学んだことを新聞にまとめました。

色やイラストを使って、見やすく分かりやすい新聞になるよう心掛けました。

紙の中には紙に戻せないものもあるので、それらを古紙の中に混ぜないようにすることが大切だと学びました。



地球では資源が減ってしまっていることに気が付きました。雑がみを、リサイクルして、できるだけ人々の力になるようにしたいです。



紙すき体験

「紙すき体験」を行い、不要なコピー用紙やチラシなどの雑がみからハガキを作りました。

この活動から、リサイクルについて学習しました。



リサイクル箱

教室内にリサイクル箱を設置して、いらなくなったプリントなど雑がみを入れています。

いっぱいになったら、学校全体で出された雑がみと一緒に業者に回収してもらっています。



プラごみの学習

10月にはプラごみについても学習しました。

市の職員とNPOの講師の方から、令和4年度にプラスチック製容器包装の回収が始まることと、海洋プラスチック問題について学びました。



プラスチック製容器包装の話では、リサイクルマークについて知り、リサイクルできるものとできないものがあることを学びました。海洋プラスチック問題の話では、お腹がへこんだ亀の話や、海だけでなく川にも影響があり、岐阜の特産物であるアユの収穫量が減る可能性があることなどを知り、衝撃を受けました。プラごみの問題を身近に感じることができました。



フィールドワーク

河川環境楽園・自然発見館のワークショップでは、実際に木曽川の河原に出て、木に幾重にも絡みついたビニール袋の様子から、環境を守る大切さを実感しました。

